

令和8年花巻市長選挙立候補予定者ジェンダー政策公開アンケート

私たちは、自分たちが住む岩手県が「ジェンダー平等で多様な人々が尊重される社会」になるよう、活動している県民有志のグループです。  
市政に重要な選挙となる「花巻市長選挙」にあたり、私たちが求めるジェンダー平等政策について、立候補予定者の方々の考えをお尋ねし、回答を公表することによって市民の方々の関心を高め、有権者の選択の参考として提供したいと考えております。なお、このアンケート集計結果は、岩手県内の報道機関への配布および公表、有権者との情報交換会、その他の方法により、多くの方々に情報をお示ししたいと考えております。

\* お名前は回答受理順とし、内容は原文のままです。

候補者の氏名	党派名	1.まちづくりに関するすべての施策にジェンダー平等の視点をもちことについて	2.女性の政治参画のため、議員等の候補者のクォータ制（女性割当制）導入について	3.女性や多様な人々の防災リーダー養成に取り組むことについて	4.女性差別撤廃条約についての選択議定書に日本が批准することについて	5選択的夫婦別姓制度の実現について	6.同性婚の実現について	7.SRHR（性と生殖に関する健康と権利）に関し、市民に対して学びの場を提供することについて	
		女性や多様な人々が暮らしやすいまちづくりには、あらゆる政策にジェンダー平等の視点が重要であり、ひとつの分野としてはなく、すべての施策と担当部署でジェンダー平等で多様な視点が必要と考えます。	都道府県版のジェンダーギャップ指数では岩手県の市区町村議会の女性議員割合のスコアは0.168（30位）で、花巻市議会の女性議員の割合は11.5%です。地方自治体の意思決定機関である市議会において女性議員の割合を高めることが必要と考えます。	東日本大震災後、防災や復興に女性の参画が重要とされ、県内各地で取り組みが推進されています。岩手県では令和6年に女性委員がいない防災会議がゼロになりましたが、男女比スコアは0.175（6位）、花巻市の女性委員の割合は19.6%です。防災や災害対応は市民に身近な地域でジェンダー視点の取り組みが必要であり、地域で活動する女性や多様な人が防災リーダーとして活動できることが望ましいと考えます。	1985年に批准した女性差別撤廃条約の選択議定書について、日本はまだ批准していません。条約の実効性を強化し、一人ひとりの女性が抱える問題を解決するため、新たに選択議定書の批准が必要と考えます。	花巻市議会は令和4年に選択的夫婦別姓制度の実現を求める請願を採択し、意見書を提出しておりますが、国においても本法案が審議されることが必要であると考えます。	花巻市ではパートナーシップ制度及びファミリーシップ制度条例を制定し、R7年4月から施行されております。条例や制度がない自治体に住所を移動する場合にも婚姻したカップルや家族と同様に暮らしやすい社会であることが望まれます	SRHRは性別や年代を問わず、自分の身体について知り、健康的で互いに尊重する人間関係をつくるために必要と考えます。	
		賛成/反対	賛成/反対	賛成/反対	賛成/反対	賛成/反対	賛成/反対	賛成/反対	
		選択の理由や具体的な方針や取り組み	選択の理由や具体的な方針や取り組み	選択の理由や具体的な方針や取り組み	選択の理由や具体的な方針や取り組み	選択の理由や具体的な方針や取り組み	選択の理由や具体的な方針や取り組み	選択の理由や具体的な方針や取り組み	
1	高橋おさむさん	無所属	賛成する	賛成する	賛成する	賛成する	賛成する	賛成する	
			性別にかかわらず、すべての人があらゆる場面で公平な扱いが保証されるべきと考えます。	女性の視点はソフト面の充実にとくに秀でていると感じるため	(1)の回答と同じ。 (性別にかかわらず、すべての人があらゆる場面で公平な扱いが保証されるべきと考えます。)	議会では採択されている以上、それに賛成するのは当たり前	(4)に同じ。 (議会では採択されている以上、それに賛成するのは当たり前)	議決した当事者の1人であるため。	市民の皆さんから必要だというご意見があれば提供すべき事を妨げる理由はありません。
			賛成する	賛成する	賛成する	賛成する	賛成する	賛成する	賛成する
2	くずまき徹さん	無所属	賛成する	賛成する	賛成する	賛成する	賛成する	賛成する	
			当事者である女性の視点があらゆる政策に反映されるために必要と考えます。	議会は住民の縮図であるべきなので、半数は女性であることが望ましいから。	避難所での避難生活など、女性や障害者の困りごとに配慮するためにはリーダーは多様であるべきと考えるから。	当然のことと考えます。	家族のあり方が最も時代の変化に対応できていないと考ええるから。家族の絆は同性の有無に左右されるものではない。	暮らす場所が変わっても、変わらずに保障されるべき権利だと考えるから。	性を直視することを忌み嫌う風潮が変わらなければ、出生率は上がらないと考えるから。
			賛成する	賛成する	賛成する	賛成する	賛成する	賛成する	賛成する
3	おばら勝さん	無所属	賛成する	賛成する	賛成する	反対する (4の質問については回答保留とさせていただきますが、回答が必須でしたので反対とした)	賛成する	反対する (6の質問については回答保留とさせていただきますが、回答が必須でしたので反対とした)	賛成する
			社会は今、男女の別に限らず、多様なスタイルで人生を送りたい人々で成り立っています。あらゆる分野でジェンダー平等の意識を持ち、多様な視点で政策を進める必要があると考えます。	クォータ制について、現行法令の下では選挙の結果を受け入れることになりますが、市内のあらゆる政策課題を扱う市議会では、女性の考えを取り入れて、ジェンダー平等かどうかなど、十分にチェックや議論がなされる必要があると考えます。	避難方法や避難所運営、復興のあり方など、地域の防災や復興には女性の視点が不可欠であり、リーダーの一員として参画する必要があると認識しています。	回答保留とします。 女性が抱える問題はいうまでもなく解決しなければなりません。そのために、新たな選択議定書の内容をどうまとめるかなど、勉強していきます。	国においても、自由闊達に審議をしていくことは重要と考えます。	回答保留とします。 原則として、それぞれの自治体の判断が尊重されるべきと考えます。	SRHRについて理解を高めることは、自身を大切にし、お互いを尊重する社会であるために重要と考える。
			賛成する	賛成する	賛成する	賛成する	賛成する	賛成する	賛成する